

氏名	藤原延清
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 1975 号
学位授与の日付	平成12年3月25日
学位授与の要件	医学研究科病理系ウイルス学専攻 (学位規則第4条第1項 該当)
学位論文題目	Monitoring of Human Herpesvirus-6 and-7 Genomes in Saliva Samples of Healthy Adults by Competitive Quantitative PCR (競合的定量的PCR法を用いた健常成人唾液中におけるヒトヘルペス6, 7型ゲノムのモニタリング)
論文審査委員	教授 小熊 恵二 教授 清水 憲二 教授 加藤 宣之

学位論文内容の要旨

ヒトヘルペスウイルス 6, 7 型 (以下 HHV-6, HHV-7) は、共に乳幼児期に唾液を介して感染すると考えられているが、感染源とされる健常成人唾液中のウイルス排泄の動態については未だ明らかではない。我々は今回、健常成人唾液中の両ウイルス DNA 量、DNA 量とウイルス分離の可否との関係について、競合的 PCR 法を用いて検討した。29人の健常成人において、PCR における唾液中の HHV-6, -7 の検出率はそれぞれ 41.4%、89.7%であり、平均 DNA 量では HHV-7 は HHV-6 よりも高値であった。このうち6人について3ヶ月間にわたって追跡したところ、HHV-7 の DNA 量は各個人で比較的一定である一方、HHV-6 の DNA 量は経時的変動が大きかった。これら6人について複数回のウイルス分離を試みた結果、HHV-7 は6人全員から分離可能であったのに対して、HHV-6 は DNA 量の多い場合も含め一度も分離は出来なかった。各個人で見ると、ウイルス分離可能であった時点では分離できなかった時点よりも高い DNA 量を示す傾向があった。今回の結果から、HHV-6, -7 両ウイルスは唾液中への排泄に関して、非常に異なった動態を示すことが明らかとなった。

論文審査結果の要旨

本研究は、健康成人唾液中に存在するヒトヘルペスウイルス6型、7型 (HHV-6, -7) のDNA量と唾液よりの両ウイルスの分離を検討したものである。まず29人の唾液を調べ、HHV-6, HHV-7のDNA検出率はそれぞれ41.4%、89.7%であることを認めた。次いで、両ウイルスのDNAが存在する6人について、3ヶ月間にわたり、DNA量の変動とウイルス分離を試み、HHV-6のDNA量は各個人での経時的変動は多いが、HHV-7の場合はほぼ一定していること、また、HHV-7は6人全員から分離されたが、HHV-6の場合にはDNA量が多くても分離されないことを認めた。以上のことより、本研究は、唾液中のHHV-6とHHV-7ウイルスの動態は非常に異なったものであること、両ウイルスの感染性の差はウイルス量の違いだけでは説明できないことなどを明らかにした価値のある業績であることを認め、博士 (医学) の学位を得る資格があると判定した。